



東日本大震災の大被害を受け、2011年5月に環境方針を全面的に改定しました。2011年9月理事会で「原発問題とこれからのエネルギー政策へのいわて生協の見解と方針」を決定したことを受け、環境方針を改定しました。

環境理念

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所の重大事故は、私たちの生活全般にわたって深刻な影響をもたらしました。電気や石油燃料が十分に供給されることを前提にした従来の考え方は、根本的に変えていくことが求められています。いわて生協は理事会で決定した「原発問題とこれからのエネルギー政策」への見解と方針に基づき、国に対して原発に頼らないエネルギー政策や再生可能エネルギーの急速な導入を求めます。また自らも再生可能エネルギーの活用・導入を積極的に推進します。

いわて生協は東日本大震災による重大な影響を真剣に受け止め、従来から掲げてきた「持続可能な社会の実現」をめざす取り組みをいっそう推進するとともに、人類共通の課題である地球温暖化防止のための活動をさらに推進します。

環境方針

1. 東日本大震災により、くらしの価値観も大きく変わりました。従来の活動の枠や発想にとらわれることなく、積極的に知恵を込めて以下の課題に取り組みます。

①いわて生協は「電力を原発に依存せず、CO₂の排出も削減する」ために、事業面においても電気使用の削減を継続的に進めます。太陽光発電の発電量増大をはじめ再生可能エネルギーの導入を推進します。また、施設・設備の省エネ型への更新、改修、変更を推進します。

②地球温暖化防止対策として、節電とともにガソリン・軽油の効率的な使用を推進し、軽油の代替燃料であるBDFの使用拡大を進めます。

また、よりエネルギー効率のよい車両の導入を進めます。

③資源を大切に活動を進め、組合員によるリサイクル活動、事業での資源節約とリサイクル活動をさ

らに強めます。またレジ袋の有料化へ向けて取り組みます。

④地産地消の活動を推進し、県内農林水産業の復興を願い、励まし支援します。

⑤岩手の森林を保全・育成する取り組みを推進します。

2. いわて生協は環境に関する法令を守り、事業によって環境を汚染しないように予防に努めます。

また、いわて生協全体の環境負荷を減らすために継続的な改善を積み重ねていきます。

3. 以上を確実に実施するため、環境教育を実施します。

4. この環境方針は誰でも入手できるようにし、環境活動の取り組みの結果を定期的に公表します。

制定日 2012年5月23日

改定日 2012年5月28日

いわて生活協同組合

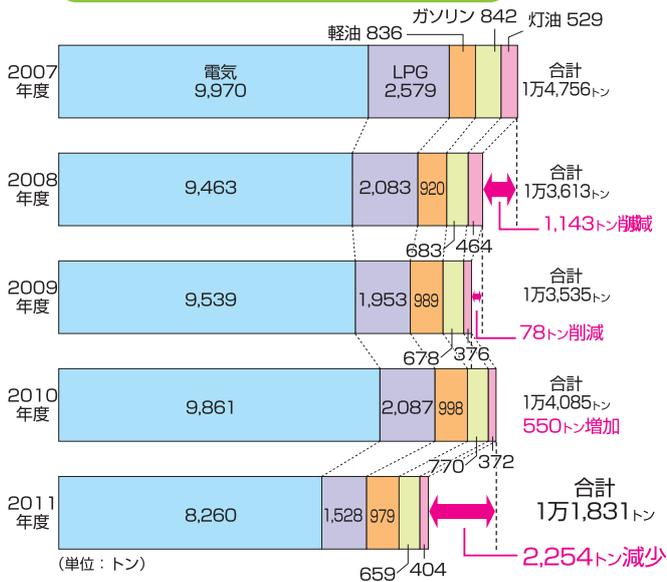
理事長 飯塚明彦

節電・BDF・燃料節約・太陽光発電により CO₂排出量は前年比84.1%と大幅削減

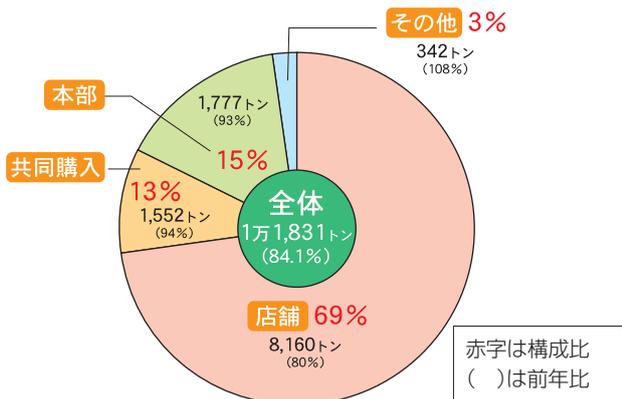
2011年度の二酸化炭素（CO₂）排出量は11,831トン（前年比84.1%）となり、前年から大きく削減できました。電気使用量は、大震災による影響に加え全事業所で節電を推進し、前年比83.8%になりました。バイオディーゼル燃料（BDF）使用増加による軽油削減、ガソリンの節約、空調・車両LPGの減少、太陽光発電量の増加もCO₂削減に効果をあげました。反面、灯油使用量は冬の記録的低温のため増加しました。

ベルフ西町のオープンによる増加要因（4か月間分）、セリオホールみやこ新設の増加分を含めても、大幅に削減できました。東日本大震災を受けて従来発想にとらわす取り組んだ成果です。

発生原因別CO₂排出量(単位：トン)



事業別CO₂排出量(単位：トン)



日本生協連「全国生協の温室効果ガス 総量削減長期計画」の達成へ近づく

2009年に日本生協連は、「全国の生協でCO₂などの排出量総量を30%削減する」という目標を決めています。

いわて生協の2011年度のCO₂排出量は、この目標に対して18.8%を達成したことになります。引き続き、目標達成までの残り11.2%相当分のCO₂削減を推進します。

日本生協連「全国生協の温室効果ガス総量削減長期計画」

基準年	2005年度
目標	2020年度までに温室効果ガス排出総量を基準年に対して30%削減する

■日本生協連「総量削減計画」に対する到達点 (トン・%)

		05年度[基準年]	2011年度実績	2020年度目標	目標差
CO ₂ 排出量(トン)	店舗	11,081	8,160	7,757	403
	共同購入・個配	1,318	1,552	922	629
	本部・セリオ・他	2,169	2,120	1,518	601
	合計	14,568	11,831	10,198	1,633
		100.0%	81.2%	70.0%	11.2%

太陽光発電を3.5倍化するなど 2012年度もCO₂削減対策を推進

2012年度は、現在40kw規模の太陽光発電を150kwまで増強するとともに、店舗基本照明のLED化を推進します。節電の取り組みをさらに強めるほか、風力発電など再生可能エネルギーの導入を検討していきます。また、BDF使用を引き続き増やすほか、燃費向上（エコ運転）の取り組みも行い、燃料節約を強めます。



2010年に釜石支部に設置された太陽光発電（20kw）。2012年は店舗、共同購入支部、セリオホールに4基設置します。

店舗の節電は、前年比79.6%と大きな成果

店舗では照明の削減や消灯、冷蔵・冷凍設備内照明の削減と設定温度の変更、空調や使用機器の制限等の対策を実施しました。冬季間の寒波による空調電力の大幅増加がありましたが、年間電気使用量を前年比80%以下に削減できました。本部や介護・福祉センター、共同購入支部でも節電努力が強められ、いわて生協全体の使用量は前年比83.8%となりました。

最大電力使用量は原発依存率相当を削減

2011年夏には、使用制限令店舗を中心に最大電力使用量（デマンド）抑制に取り組み、8月のデマンド合計値を5,657kwに削減できました（低圧契約の釜石支部、久慈支部、宮古病院内コープチェリオを除く）。前年8月よりも930kw削減（削減率は16.4%）になり、震災前の東北電力の原発依存率16～17%に相当する電力を削減できました。



電力使用制限令を対象4店舗で達成

2011年夏の電力使用制限の対象は、マリンコープドラ、コープアテルイ、コープ関コルザ、ベルフ牧野林の4店でしたが、いずれの店舗もデマンド15%削減を達成しました。

照明のLED化を推進

売場スポット照明等のLED化に続き、基本照明（天井）のLED化を進め、コープアテルイ、マリンコープドラで終了しました。2012年度も店舗、本部棟でのLED化を推進することとしています。

BDF使用量は2.2倍、CO₂削減効果は86トン

使用済みてんぷら油を精製したBDFの使用量は、33,148ℓ（前年比235%）となりました。全10支部で共同購入トラック30台（前年24台）で使用し、軽油使用を減らした効果でCO₂排出量を86トン抑制することができました。BDF精製量は11,662ℓ（前年比132%）となり、使用量に対する不足分を県内各地のBDF施設からの購入、京都生協、コープさっぽろからの支援BDFで補いました。

「BDF活用フォーラム」に県内外から110名

地域にあるエネルギー資源としてのBDF活用を推進しようと、2011年10月12日に「BDF活用をすすめるフォーラム」を環境パートナーシップいわてと共催。岩手県、盛岡市、環境省仙台事務所をはじめ県内外から行政、BDF施設、建設、農業、生協関係者など110名が出席し、富山や会津の経験を学びながら県内での普及について討議しました。



IBC岩手放送のBDFキャンペーンに協力

東日本大震災を受けてIBC岩手放送が企画した番組「地域エネルギー普及キャンペーン」の製作に協力。BDFの精製やトラックでの使用、使用済みてんぷら油の回収拠点としての生協店舗など、いわて生協の取り組みをテレビ・ラジオでアピールしました。

また、産直提携先である今松野菜生産組合（岩手町）と(有)ピース（奥州市・米生産者）が農業機械でBDFを実験使用。軽油と変わらない性能が確かめられ、今後のBDF活用の可能性を広げました。

低炭素杯2012 特別賞を受賞

大震災直後にいわて生協は、BDFを確保していち早く被災地支援を行いました。この活動が「低炭素杯2012」（2月18日・19日、東京ビッグサイト）で特別賞「東日本大震災被災地貢献活動賞」

を受賞しました。「低炭素杯」では組合員「おにぎりボランティア」の行動や、各地での炊き出し、移動販売などの活動を紹介。BDFトラックが震災時に貴重な輸送手段として貢献した様子を報告しました。



組合員からのリサイクル回収量は2,501トン

組合員のリサイクル活動は、大震災を機にさらに強まりました。ペットボトル、発泡トレイ、透明トレイ・ふた、牛乳パック、アルミ缶の回収量が大幅に増えています。共同購入チラシは大震災の影響で発行減となり回収量も減少しましたが、リサイクル回収の合計量は2,501トン（前年比96%）となっています（詳細は21ページ）。

全事業所の発泡スチロールをリサイクル

発泡スチロールのリサイクルは、新たにコープアテルイ、コープ関コルザ分を本部減容施設での処理に移行し、開始から3年目で全ての事業所分をリサイク



発泡スチロール減容リサイクル施設（本部構内）。

ルすることができました。2011年度は52.6トン（前年比117%）をリサイクルしました。

生ごみでガス発電、5.7トンのCO₂削減

2009年7月から始まった盛岡・滝沢地区店舗の生ごみ（食品残さ）リサイクル。2011年度は86トンのリサイクルしました。小岩井農場（バイオパワーしずくいし=BPS）で発酵ガス発電や液肥の原料として活用されています。BPSのデータによると、発電貢献量は1万2,256kWh、CO₂排出削減効果は5.7トンと推計されます。



いわて生協の生ごみをリサイクルしているバイオパワーしずくいしの全景。

法律で45%以上に目標設定されている食品リサイクル率は64%でした。

**2011年度
食品リサイクル率 64.4%**

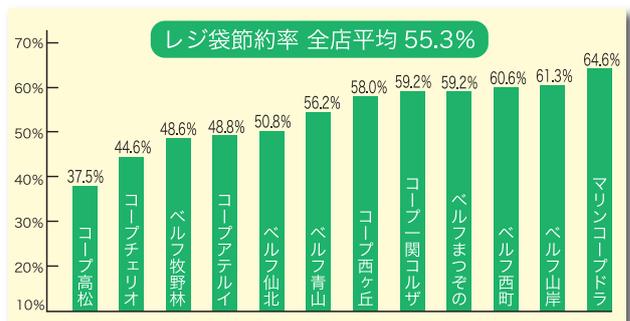
$$\text{食品リサイクル率 (\%)} = \frac{\text{リサイクルできている量 (352トン)}}{\text{リサイクル量 (352トン)} + \text{食品系廃棄物 (194トン)}} \times 100$$

レジ袋節約率は55.3%、714万枚を節約

レジ袋節約（マイバッグ持参）率は2012年3月度は55.3%（前年3月度はデータなし）、年間平均は56.9%と前年に比べて3.5ポイント向上。特にマリンコープドラが1位（64.6%）になるなど、宮古市内店舗での節約率向上が目立っています。

レジ袋節約効果、CO₂削減効果、石油節約効果の推計は下記の通りです。

レジ袋節約率（2011年3月度末）	55.3%（年平均では56.9%）
節約できたレジ袋（2011年度）	714万枚
石油節約効果推計（2011年度）	130,662ℓ（7,259缶）
CO ₂ 削減効果推計（2011年度）	274,890kg



使用済みてんぷら油は約8,626ℓ回収

組合員から回収した使用済みてんぷら油は、店舗3,338ℓ、共同購入5,288ℓ、合計8,626ℓでした。

月を追って回収量は増えていますが、共同購入トラック30台で使用するための必要量の28%に止まりました。



BDF精製施設に集められた使用済みてんぷら油

ペットボトルキャップ回収を開始 代金はユニセフ募金へ

組合員の声に応じて全店にペットボトルキャップ回収箱を設置し、回収を始めました。この代金はユニセフに寄付されます。2011年度は約4.8トン回収し、57,367円を寄付しました。

「コープの森づくり」の本格展開へ

「コープの森づくり」活動は、2回目の植樹を2011年5月に葛巻町で実施。秋には組合員が葛巻町「森の感謝祭」に参加、森林組合のみなさんと草刈り作業を行いました。「どんぐり貯金（ど



組合員による下草刈り作業

んぐりを自宅で苗木まで育てる)」活動にも110人が取り組むなど活動が広がりました。2012年5月からは「コープの森づくり基金」を設立、「苗木1本募金」運動もスタート。2012年6月には組合員家族や、常勤者



133人が参加し、第3回の植樹を実施。「コープの森」は累計6,600本になりました。

第3回「コープの森」植樹
(2012年6月2日)

「親子で学ぶ環境」店舗で7回実施

店舗でのさまざまな環境の取り組みを親子で学ぶ「エコ探検隊」は夏休み・冬休み期間に7回実施され、147人が参加。リサイクルコーナーや廃棄物を減らす工夫、環境に配慮した商品を学びました。



お店のリサイクル実績を調べる子供たち。

共済センターはチラシ別に成約率を監視

共済センターは、共済案内チラシの効率的活用のためにチラシ別に加入成約率の調査を行っています。2011年度はチラシ活用期間を従来より長く設定して分析しました。

レジ袋大幅削減へ向け提言書提出

レジ袋の有料化を含む大幅削減へ向け、イオングループ各社とともに提言書を提出。岩手県、岩手県市町村清掃協議会に対し、事業者、県民、行政の共同によってレジ袋の大幅削減をすすめることを提言しました。

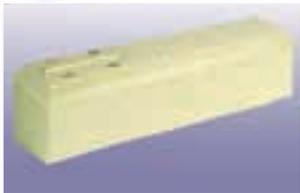


提言書を岩手県市町村清掃協議会あてに提出（2012年3月1日、盛岡市役所）。

葬儀でも環境配慮のエコ棺を利用

セリオ葬では、葬儀の棺に環境負荷の小さい「エコ棺」をおすすめしています。

「エコ棺」は管理された森林から採取した材木を徹底して有効利用。火葬時のCO₂排出が少ない棺です。また、1棺利用ごと10本の苗木がモンゴルで植林



布地素材や接着剤も天然のものを使用しているエコ棺。

されます。エコ棺の利用は、2011年度は738件の葬儀のうち134件（18.2%）、累計では494件、植林は7,440本（エコ棺分4,940本、セリオからの苗木寄付分が2,500本）となっています。

共同購入トラックの燃費が4年連続向上

共同購入支部ではデジタルタコメーター「みまもりくん」を活用したエコ運転の推進や、LPG車から軽油車への転換を進め、全車平均燃費1ℓ当たり6.90km走行（10年度6.57km、09年度6.39km、08年度5.96km）を実現しました。この結果、4年連続で配達車両の燃費を向上させ、大きな省エネ効果を生み出しました。

経理帳票のリサイクルを拡大

経理チームでは、個人情報を含む帳票を焼却処分せずリサイクルに回す取り組みを進めています。帳票を排出する時に裁断立会いを行い、古紙リサイクルに回る量を増やしています。2011年度は1.8トンの帳票をリサイクルしました。

農産チーム 「顔と暮らしが見える産直品」の普及**震災影響・天候不順の中でも6億1056万円（前年比99%）の供給高に**

輸送距離が短い「顔と暮らしが見える産直品」普及は環境負荷を減らす上で有効です。産直収穫祭や店舗ごとの産直コーナーの取り組み、日常のおすすめ活動で普及を進めました。天候不順の影響を受けた作目もありましたが、6億円を超える利用を確保しました。

水産チーム 「三陸産のアイコープ商品」の普及**被災メーカーの復興を応援**

大震災により三陸沿岸メーカーが被災し、供給高は大きく減少しました。4～6月度は前年比1割台の供給高が続き、下期には前年比3割台まで回復しましたが、年間では4184万円（前年比33%）にとどまりました。メーカーを激励するとりくみを展開し、復旧・復興の努力を応援してきました。



店舗で真崎わかめを応援

惣菜チーム 県内産食材を利用した惣菜の供給を増やす**2億33万円（前年比122%）の供給高に**

三陸沿岸の食材が大打撃を受ける中、県内産の野菜、山菜、畜産物の使用を重視した商品開発を進めました。産直・県内産原材料商品の利用呼びかけを強めた結果、供給高は初めて2億円を上回りました。

畜産チーム 県内産畜産物を普及する**供給高は6億403万円（前年比94%）**

震災影響で供給休止に陥った産直若鶏の利用拡大へ向けて、常勤者と組合員と一緒に取り組みました。生産者の実情を組合員に伝えたり（秋のコープのつどい）、組合員の公開安全確認



若鶏生産者を訪ねて実状を聞く組合員。

会参加を通じて利用を呼びかけました。供給高は6億円を超えましたが、前年比は94%でした。

グロサリーチーム 県内製造の開発商品の普及を進める**産直米は64トンを供給**

生産から消費までの環境負荷が少ない「県内メーカーと共同開発した商品」と「県内メーカー製造品」の普及を進めました。供給休止や廃番となった商品もあり、年間供給実績は1億1,839万円（前年比98%）になりました。



産直米の精米施設で生産者と交流

産直米は、2010米穀年度（2010年10月～2011年9月）で予定した産直米64トンを全て供給しました（前年比98%）。

環境マネジメントシステム(EMS)の自主運用は3年目を迎えました

いわて生協は2000年に県内流通分野で初めて環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格ISO14001の第三者認証を取得、環境活動を発展させてきました。2009年に外部審査機関による3回目の認証継続結果を受け、2010年下期から独自のEMSに移行しました。EMSのマニュアルを簡素化しより戦略的なテーマに取り組んでいくことがねらいです。2011年度は大震災直後でしたが、初めて年間通してのEMS運用を行い、全体として大きな成果をあげました。

●**内部環境監査** 24人の監査員が2012年1月16日から2月4日まで、監査基準で抽出した事業所及びシステム全体（環境マネジメント責任者及び事務局）に対して実施。重大な不適合はなく、軽微な不適合9件を指摘し全て是正を終了しました。また改善余地（要望）を14件、他の事業所に推奨すべき所見メモを39件見出しました。

●**環境情報** 環境にかかわる組合員や近隣住民、お取引先からの苦情はありませんでした。店舗の環境活動に関する学校からの見学要請は52件あり、750人の生徒・児童に対応しました。

●**緊急事態想定** 環境上の事故と決めている事態は1件発生しました。2012年1月31日、組合員宅で灯油給油中にノズルが外れ、約2ℓの灯油を漏洩しました。灯油の回収、中和等、迅速に対応しました。

エネルギー・資材の使用

■エネルギーの使用

電気	21,850千kWh
LPG	225,708m ³
灯油	162,068ℓ
ガソリン	291,318ℓ
軽油	373,281ℓ
車両LPG	91,114ℓ
ドライアイス	537,373kg
水	133,879m ³

■資材の使用

紙
 コピー紙(A4換算).....892万枚
 コピー紙以外の紙.....2,545トン
 (共同購入・店舗チラシ・広報物など)

容器・包装材
 レジ袋.....36,059kg
 ポリ袋.....6,653kg
 トレイ(透明トレイ含み).....134,996kg
 ラップ.....17,908kg
 共同購入シッパー内袋.....15,405kg

車両の使用台数(254台)
 ディーゼル・BDF車.....160台
 ガソリン車.....87台
 LPG車.....8台
 (2012年3月現在：委託車両は含みません)

環境への排出

■大気への排出

NO _x 排出量試算	135,599kg
CO ₂ 排出量	11,831トン (前年度14,085トン)

■廃棄物

一般廃棄物	751,886kg
廃家電の排出(家電リサイクル法)	418台

■事業活動の中で分別・再資源化しているもの

項目	2011年度	前年比
紙	92,818kg	93%
びん・缶	74,845kg	195%
発泡スチロール	67,845kg	96%
発泡スチロール(減容インゴット化)	52,600kg	117%
ダンボール	1,572,431kg	95%
廃食油	25,693kg	106%
魚アラ	158,040kg	121%
肉脂	48,281kg	118%
生ごみ	171,795kg	110%
共同購入シッパー内袋	6,711kg	85%
商品納品時フィルム	4,347kg	112%
合計	2,275,405kg (2,275トン)	100%

組合員のリサイクル活動(店・共同購入)

上段：回収量(前年比) 下段：枚数換算値

トレイ(発泡)	40.8トン (106%) 817万枚 回収	トレイ 242万枚 に再生 この他、透明トレイ、 ふたが16.7トン回収されています。
ペットボトル	91.0トン (121%) 151万本 回収	卵パック 530万枚 に再生
卵パック	18.4トン (81%) 108万枚 回収	卵パック 108万枚 に再生
牛乳パック	55.0トン (101%) 165万枚 回収	トイレット ペーパー換算 約14万ロール に再生
共同購入 チラシ	2,250トン (94%) 回収	アイコーわたしたちの リサイクルトイレットロールに再生 約303万ロール に相当
アルミ缶 スチール缶	28.6トン 回収	アルミ・鉄製品 に再生
廃食油	8,626ℓ 回収	BDF(バイオ ディーゼル燃料) を作ります。

※業者に払渡して再資源化した数量です。

いわて生協のリサイクルの流れ

牛乳パックの回収
 店舗共同購入 ▶ 業者に引渡 ▶ ティッシュペーパー
トイレットペーパー

共同購入チラシの回収
 生協本部保管 ▶ 業者に引渡 ▶ 一関市・
上山製紙 ▶ アイコーわたしたちの
リサイクルトイレットロール

ペットボトル、卵パックの回収(ペットボトルは店舗のみ)
 店舗・共同購入(ペットボトル・
卵パック) ▶ 大船渡市・
洗浄・ペレット化 ▶ 和歌山県・
ポリテックシート再生シート ▶ 生協で供給する
卵パックに利用
ペットボトルは共同購入では回収していません。

食品トレイ・透明トレイ・ふたの回収
 店舗共同購入 ▶ トレイメーカー
エフピコ工場 ▶ 再生トレイ

発泡スチロールの回収
 店舗SC、FC ▶ 本部・
減容処理(インゴット化) ▶ 大船渡市・
志田産業ペレット化 ▶ 再生原料として
出荷(国内)

1990年 いわて生協合併発足

- 牛乳パックの回収リサイクルを開始
- 買い物袋節約スタンプ制開始
- 印刷用紙、コピー用紙、名刺等の再生紙への切り替え開始

1991年

- 使用済みOCR用紙のリサイクルを開始
- 食品トレイの回収開始

1992年

- アルミ缶の回収を青山店（現ベルフ青山）で開始
- 朝配達牛乳のビン容器化のテスト実施

1993年

- 朝配達牛乳で紙パックからリターナブルビン容器（720ml）へ切り替え
- レシート用紙が再生紙に
- 包装ラップを非塩ビラップに切り替える実験

1994年

- 包装ラップを非塩ビラップに切り替え
- 店舗の飲料自動販売機の台数を削減（42台から20台へ）
- ギフトの簡易包装紙を開発使用

1995年

- ペットボトルの回収リサイクルを開始
- 共同購入トラックにLPG（低NOx）を導入開始

1996年

- 共同購入盛岡3支部で商品案内チラシ回収リサイクルを開始
- 注文のないOCR注文用紙の回収リサイクルを開始

1997年

- 共同購入全支部で商品案内チラシ回収リサイクルを実施
- 盛岡市「ごみ減量・リサイクル協力店」に認定

1998年

- 回収したペットボトル・卵パックを卵パックとして再利用
- 回収した商品案内チラシを原料にトイレットペーパーを商品開発

1999年

- アイコープ低温殺菌牛乳（200ml）でリターナブルビン容器使用
- ペットボトル・卵パック圧縮減容の作業開始

2000年

- 県内流通業で初めてISO14001規格の外部認証取得
- LPG車両が50台を超え半数以上の導入計画達成。
- マイバッグ、マイバスケットの本格的普及活動を開始

2001年

- 「いわて大環境祭」（滝沢村・県産業文化センター）に出展参加
- 印刷物に大豆インキを採用
- 遺伝子組換え原料・飼料の排除のとりくみ本格化

2002年

- 買い物袋節約スタンプからカードポイント制に変更
- 共同購入の内袋を回収し、内部使用のゴミ袋にリサイクル

2003年

- 買い物袋節約率が30%を超える
- 奥州市コープアテルイで生ごみの堆肥化リサイクルを開始

2004年

- 印刷物・帳票類の再生紙への切り替えが終了

2005年

- 岩手県「エコショップ」制度第1号認定を受ける（全店）
- 「森林（もり）を守る募金」開始（以後4年間で県内環境団体へ150万円贈呈）

2006年

- セリオホールみたけに太陽光発電1基目を導入
- 共同購入トラックでBDF使用開始（6台）

2007年

- PPバンド、ストレッチフィルムなど廃プラスチックのリサイクル拡大
- 買い物袋節約率45%に到達。50%をめざす新目標を決定

2008年

- 発泡スチロールの減容・リサイクル施設完成
- 共同購入トラックで燃費改善のとりくみ開始
- 買い物袋節約率が51%となり組合員の過半数の節約率を実現

2009年

- 本部構内にBDF精製施設を設置
- 透明トレイ・ふたの回収リサイクルを開始
- 盛岡エリア店舗の生ごみ・食品残さを小岩井農場内でガス発電・液肥へのリサイクルを開始

2010年

- 「コープの森づくり」活動スタート。葛巻町で第1回の植樹実施
- BDF使用が本格化し全支部で24台がBDFで走行。
- 県「エコショップ」制度で「特別表彰」（模範的事業活動に対して）を受賞
- 3回目の更新審査合格を機にISO14001を終了。独自EMS運用へ

いわて生協のプロフィール (2012年3月20日現在)

本部／岩手県岩手郡滝沢村滝沢字土沢220-3
 電話 019-687-1321 (代表)
 FAX 019-687-1491
<http://www.iwate.coop/>
 創立／1990年3月21日

出資金／70億4,781万円
 供給高／374億7,794万円 (2011年度実績)
 組合員数／205,776人 (県内世帯数比38%)
 班数／11,201班 (個配含まず)
 班員数／34,845人
 個人宅配／35,178人

2011年度の事業の決算概況

2011年度損益計算書

(2011年3月21日～2012年3月20日) (単位:百万円)

科目	実績
供給高	37,477
供給剰余金	9,439
その他の事業収入	1,060
事業総剰余金	10,522
管理費	9,387
人件費	4,438
物件費	4,949
事業剰余金	1,135
事業外収益	106
事業外費用	38
経常剰余金	1,203
特別利益	171
特別損失	778
税引前剰余金	596
当期剰余金	228

事業部門別供給実績

(2011年3月21日～2012年3月20日) (単位:百万円)

事業部門	実績
店舗事業	22,641
共同購入事業 (灯油含む)	13,924
葬祭事業	909
その他	3
総供給高	37,477

2011年度貸借対照表

(2012年3月20日現在) (単位:百万円)

資産の部		負債・資本の部	
流動資産	7,835	流動負債	7,956
固定資産	11,336	固定負債	1,919
有形固定資産	8,512	出資金	7,048
無形固定資産	276	剰余金	2,248
その他固定資産	2,548		
資産合計	19,171	負債・資本合計	19,171

職員数及びその増減その他の職員の状況

区分	前期末数(人)	当期末数(人)	平均年齢、平均勤続数
正規職員	324	333	41.1歳
			18.0年
パート・アルバイト等職員	1,618	1,585	/
総数	1,618	1,585	
正規換算数	1,009	1,006	

(注) パート・アルバイト等職員の正規換算は、1日8時間を基準としています。



事業所一覽

本部 滝沢村滝沢字土沢220-3

本部／総務チーム・役員室・開発施設部 TEL019-687-1321
 FAX019-687-1491
 組織本部 TEL019-603-8299
 経理チーム TEL019-687-1341
 事業本部／
 商品部
 店舗事業部 TEL019-687-1441
 品質管理室
 共済センター TEL019-687-1306
 コープ保険センター ☎ 0120-239739



●上欄に記載の部署のほか、共同購入センターや生鮮加工センターもこちらです。

共同購入

盛岡 滝沢村滝沢字土沢220-3 ☎ 0120-042306
 東・西・南支部
 宮古支部 宮古市田鎖第8地割字十文字12-1 ☎ 0120-693312
 花北支部 花巻市石鳥谷町小森林第5地割220-1 ☎ 0120-405531
 県南支部 奥州市前沢区字五合田63-8 ☎ 0120-803620
 釜石支部 釜石市平田第3地割75-1 ☎ 0120-272201
 けせん支部 大船渡市盛町字馬場23-5 ☎ 0120-263957
 にのへ支部 一戸町一戸字越田橋25-1 ☎ 0120-255582
 久慈支部 久慈市新井田3-98-1 ☎ 0120-341588
 盛岡灯油センター ☎ 0120-112021
 住まいと暮らしのサービスセンター ☎ 0120-879300

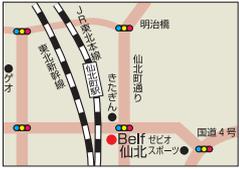
コープ高松

盛岡 あさ7時～よる11時
 P 30台
 盛岡市上田4丁目21-5
 TEL.019-624-2218
 FAX.019-624-2226



Belf 仙北

盛岡 あさ9時～よる10時
 P 180台 灯油取扱
 盛岡市仙北3丁目8-40
 TEL.019-635-0135
 FAX.019-635-0158



Belf 青山

盛岡 あさ9時～よる10時
 P 180台 灯油取扱
 盛岡市青山4丁目17-2
 TEL.019-647-8181
 FAX.019-647-8184



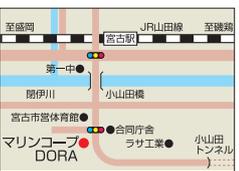
Belf 西町

宮古 あさ10時～よる9時
 P 80台
 宮古市田の神2丁目2-30
 TEL.0193-62-0203
 FAX.0193-62-0338



マリコープDORA

宮古 あさ10時～よる8時
 (日曜・祝祭日はあさ9時開店)
 P 600台
 宮古市小山田2丁目2-1
 TEL.0193-63-3131
 FAX.0193-63-3366



セリオホール中野

盛岡 年中無休
 P 60台
 盛岡市中野2丁目3-25
 ☎ 0120-059212
 FAX.019-654-1900



セリオホールみやこ

宮古 年中無休
 P 60台
 宮古市小山田3丁目3-5
 ☎ 0120-634477
 FAX.0193-63-8441



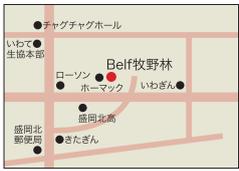
Belf 山岸

盛岡 あさ9時～よる10時
 P 150台 灯油取扱
 盛岡市山岸2丁目16-8
 TEL.019-654-2184
 FAX.019-654-4092



Belf 牧野林

滝沢 あさ9時～よる10時
 P 550台
 滝沢村滝沢字牧野林291-1
 TEL.019-699-3566
 FAX.019-687-3412



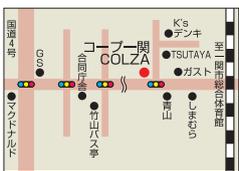
コープ西ヶ丘

宮古 あさ10時～よる9時
 P 40台
 宮古市西ヶ丘1丁目6-1
 TEL.0193-64-1158
 FAX.0193-64-1199



コープ一関COLZA

一関 あさ9時～よる10時
 P 380台
 一関市石畑3-1
 TEL.0191-26-3331
 FAX.0191-26-3380



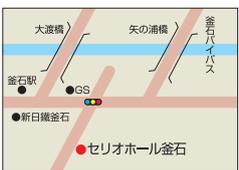
セリオホールみたけ

盛岡 年中無休
 P 30台
 盛岡市みたけ3丁目7-35
 ☎ 0120-529711
 FAX.019-647-8990



セリオホール釜石

釜石 年中無休
 P 20台
 釜石市松原町2丁目7-23
 ☎ 0120-253660
 FAX.0193-22-3663



Belf まつその

盛岡 あさ9時～よる10時
 P 110台
 盛岡市松園3丁目18-20
 TEL.019-662-5152
 FAX.019-662-8018



コープAterui

水沢 あさ10時～よる10時
 (日曜・祝祭日はあさ9時開店)
 P 1400台
 奥州市水沢区佐倉河字東沖ノ目123
 TEL.0197-51-0088
 FAX.0197-51-0070



コープチェリオ

宮古 あさ8時～よる7時30分
 P 140台
 宮古市崎敷ヶ崎1-11-26
 TEL.0193-64-4121
 FAX.0193-64-6022



コープ介護・福祉センター“あい”

盛岡 あさ9時～よる18時
 P 145台
 盛岡市北天昌寺町1-60
 ☎ 0120-179131
 TEL.019-643-9131
 FAX.019-643-9138



セリオホール緑が丘

盛岡 年中無休
 P 36台
 盛岡市緑が丘3丁目10-35
 ☎ 0120-809241
 FAX.019-664-9242



盛岡市保護継園 盛岡市保存建造物 南昌荘

盛岡 10時～17時・月火休
 (12月～3月は16時閉館)
 P 10台
 盛岡市清水町13-46
 TEL & FAX 019-604-6633



2012年は「国際協同組合年」です。



今年は、国連が定めた国際協同組合年です。協同の輪を広げ、安心して暮らせる社会をつくりましょう。

国連は2009年の第64回国連総会において、2012年を国際協同組合年とすることを宣言しました。これは、協同組合がもたらす社会経済発展への貢献が国際的に認められた証で、特に協同組合が貧困削減・仕事の創出・社会的統合に果たす役割が着目されています。

国際協同組合年 3つの目的

1. 協同組合についての社会的認知度を高める
2. 協同組合の設立や発展を促進する
3. 協同組合の設立や発展につながる政策を定めるよう政府や関係機関に働きかける

岩手県における2012国際協同組合年の記念事業

主催：2012国際協同組合年岩手県実行委員会

1. 講演会・シンポジウムの開催

- (1) 2012国際協同組合年岩手県シンポジウムの開催
(2012年7月2日)
- (2) 記念行事
わらび座ミュージカル「おもいでぼろぼろ」上演
(2012年9月6日盛岡市・9月8日大船渡市)

2. 協同組合間提携の強化

県内農林水産物の購入・販売運動の促進
県内食材を利用したレトルトカレーの開発・販売
(2012年9月から)

3. 国際協同組合年のPR活動

- (1) 国際協同組合年スローガン・ロゴの活用
- (2) 広報活動につかう共通の原稿作成
- (3) ホームページの活用

4. 学習活動の促進

各協同組合の学習活動への支援・促進

社会活動・環境活動報告書2012年版

発行／2012年6月 いわて生活協同組合

お問い合わせ先／環境事業推進室（TEL 019-687-1321）